

第1回 県行政支出点検・行政改革推進委員会へ

連合山形 小口 裕之

1 行財政改革推進プランの取り組み実績について

まず、プランの重点それぞれに目標値を大きくうわまわっている状況がみられ4年間の取り組みに敬意を表します。特に、重点第3の「男性職員育児休業取得率(知事部局)」の実績44.4%は今後の変容が期待されるものと感じました。

県庁職場から率先して推進することで取得なされた方の気づきや職場の雰囲気づくりなど発信していただきたい。「子育てするなら山形県」「あったかい県政」の柱となりはずです。また、育児時間取得など、育児保障や母性保障にパートナーが自然に寄り添える職場環境をつくりたいものです。また、シングルでも子育てが可能な社会環境・労働環境も必要と思います。

次に、第2の「審議会など女性や若者を積極的に選任」するとあります。特に、重要と感じますし、その方向で進められてきており今後の成果が大いに期待されるものと思います。

3つの重点が次のプラン2021のベースとなるわけですから、次のステップでのさらなる改善や行政サービスの向上に結び付けていただきたいと思います。

行政サービス向上は「職員の働き方改革、ワークライフバランスの向上」からをキーワードにご尽力頂ければと思います。

2 プラン2021の取り組み計画について

ベースは推進プランであります。是非、4年間の実績をもとにそれぞれどれも大事という発想より、スクラップ・アンド・ビルドをここで発揮していただきたい。目標値に特に重点などメリハリを設けてはどうでしょうか。

個人的には、女性や若者の働き方改革、ジェンダーギャップの解消こそが県政の大きな柱の一つであろうと感じます。

3 県財政の状況について

持続可能な財政基盤の確立が重要と思います。コロナという未曾有の状況下であり、自然災害対応などもあり、県政運営に心より敬意を表します。

感染症や自然災害対応など、専門技術者の人材確保が喫緊の課題かと思えます。危機管理体制強化の観点で総合的な計画も今後必要かと思われれます。

そのためにも国に対して、地方交付税交付金の充実や地方創生交付金の継続などを強く要請し、地方自治体の財源確保に努めていただきたいと思えます。

以上です。

令和3年度 山形県行政支出点検・行政改革推進委員会（第1回）
欠席委員からの御意見

<山口 良子 委員>

○ 議題（2）山形県行財政改革推進プラン2021の取組計画について

第1の柱 県民の視点に立ち時代に即した行政サービスの提供

2 県民との対話の推進・県民の声の的確な把握

（2）県民の声の把握と組織全体での共有

県政のアンケート調査につきましては、ネットで回答できるとよいのではないのでしょうか。

高齢者に関しては、公民館などで手伝ってもらいながらアンケートに回答してもらうと集計に要する手間や費用が減るように思います。

実際に、学校でのアンケートは、ネットでの回答になっていて、答えるほうも、集計するほうも楽になっていると思います。

第1の柱 県民の視点に立ち時代に即した行政サービスの提供

6 県民の安全・安心を守る危機管理機能の充実・強化

（2）危機対応力の強化

③ 災害等における効果的な情報発信

こちら防災やまがた！のHPでの災害情報発信については、大変よいと思います。

県警の「やまがた110ネットワーク」のように、災害情報を登録している地域でメールが来るようにするなど、多くの人が利用できるようにしていくとよいと思います。

* 災害時でもスマホは肌身離さず持ち歩くものであり、写真をとったり、個人で情報発信していくと考えられます。

一度登録しておけば、県民は情報を手に入れることができるので、なるべく平等に情報発信するという意味では、ランニングコストは抑えられると思います。